

The Shinro Journal

令和8年6月30日（火）
島根県立松江東高校 進路指導部

The Shinro Journal とは・・・松江東高校進路指導部が発刊する情報紙です。主に進路に関する情報提供や、各種行事や講座の案内・報告を行っていきます。

「夢との距離を知ることから、本当の挑戦は始まる」

「メジャーは思っていたより遠かった。間近で一流選手を見て、自分との差を痛感した。」
これは、北海道日本ハムファイターズ時代の 大谷翔平 の言葉である。理想としていたメジャーリーグを目の前にし、そのレベルの高さを実感したのだ。

しかし、大谷翔平 はそこで諦めなかった。2014年の日米野球第5戦では160キロ近い速球を投げ込み、MLB オールスター監督のジョン・ファレルから「どこの野球界でも通用する」と高く評価された。理想との大きな差を知った経験こそが、大谷選手をさらに成長させたのである。

多くの人は、理想とのギャップを「自分には無理だ」というマイナス材料として捉えてしまう。そして、その現実を知ることが怖がり、模試の結果や難しい問題、自分より優れた人たちから目をそらしてしまう。つまり、ギャップを確認せず、自分を守ろうとしているのである。しかし、それは夢に挑戦する前に、すでに逃げている状態とも言える。

本当に大切なのは、その差から目をそらさないことだ。理想と実力との距離を正しく理解できると、今まで見えていなかった課題が見えてくる。何が足りないのか、どこを伸ばすべきなのか、それが明確になり、努力の方向が定まる。

これは受験にも同じことが言える。第一志望の大学を目指していても、模試の判定や難しい過去問題を前にすると、自分との差を感じることもあるだろう。「思っていたより遠い」と感じる瞬間もあるかもしれない。しかし、その現実を知ることこそが成長の始まりである。

夢と現実のギャップは、才能の限界を示すものではない。それは、「ここを乗り越えれば、理想に近づける」という挑戦状である。現実から逃げず、その差を一つずつ埋めていくことで、人は成長していく。大谷翔平が世界へ羽ばたいたように、受験もまた、自分の理想へ向かって挑み続ける過程なのである。

*これからの模試計画・進路行事

7月8日（水）	1年・2年 進研学力テスト
7月10日（金） 7月11日（土）	3年進研記述模試
7月17日（金）	島根県立大学校内説明会、第2回公務員模試
7月30日（木） 7月31日（金）	3年全統マーク模試
8月3日～	3年オープン模試（大学別模試）
8月17日（月）	1年・2年 全統記述模試（希望者） 目標校との学力差を確認するチャンスです。

3年生

3年生は4月16日（木）に、近畿大学入学センターの屋木清隆先生による講演を聞きました。講演では、高い目標を持つことの意義や、モチベーションを維持することの大切さについて学びました。いよいよ受験の天王山である“夏”を迎えます。今回は、講演の中でも特に印象的だった「受験勉強のポイント」について、改めて確認します。

◆ 受験勉強のポイント

- ◎ 授業を大切に（これが土台！）
- ◎ 基礎学力をしっかりと身につける
- ◎ 苦手科目は早期に克服・わからないことを放置しない
- ◎ 模試・テストを上手く活用する
- ◎ 規則正しい計画性のある学習を続ける

講演内容を忘れてしまった人もいるかもしれません。そこで、別の言葉で説明します。

基礎力の定着 ～ある中高一貫校の「進路だより」～

ここ数年、強く感じていることがあります。それは、難度の高い模試よりも、標準的な模試の結果の方が、実際の大学入試の結果と強く結びついているということです。大学入試では、普段とは異なる緊張感の中で力を発揮しなければなりません。そのような場面で最後に頼りになるのは、自分の中に残っている「基礎力」です。基礎をおろそかにしたまま身につけた力は、大事な場面で崩れてしまいます。一方で、基礎を積み重ねた人ほど、最後まで安定して力を発揮できます。実際に、難関大学へ合格した先輩たちの多くが、「授業で扱った教材が一番役に立った」「英単語テストや漢字テストの積み重ねが土台になった」と話しています。当時は重要性に気づかなくても、日々の地道な学習が確かな力として残っていたのです。ただし、「基礎力＝簡単な問題が解けること」ではありません。基礎力とは、物事の本質や仕組みを理解し、必要なときに確実に使える状態にしておくことです。大学入試は年度によって出題傾向が変わります。だからこそ、表面的な対策だけでなく、どのような問題にも対応できる「核」となる力が必要です。その核となる力こそが基礎力であり、難関大学の入試で求められる本当の力なのです。

では、この“夏”に基礎力を身につけるために必要なことは何でしょうか。それは、「孤独に耐えること」です。勉強は、集中して取り組まなければ成果が上がりません。周囲に人がいても、勉強している時間は自分自身との戦いです。

ある医学部に合格した先輩は、次のように話していました。

2年生の夏から本格的に受験勉強を始めました。夏休みは、午前中は部活動、午後3時間・夜3時間の計6時間を学習時間として確保することを目標にしました。家で勉強していると、時々寂しくなることもありました。青春時代に家にこもって勉強していてよいのだろうか、と何度も考えました。しかし、『医学を志すなら、今こそ勉強に打ち込む時期だ』と自分に言い聞かせ続けました。合格したとき、自分の選択は間違っていなかったと実感しました。

学習する場所は、自宅でも学校でも構いません。友人と一緒に学習するのもよいでしょう。しかし、周囲に流されず、自分の目標に向かって努力を続ける「孤独に耐える力」は、この“夏”に基礎力を伸ばすために欠かせないものです。

2年生

～挑め、17歳～

前回の進路ジャーナルでは、1月ベネッセ総合学力テストの結果を受けて、Classiの課題への取り組み状況と成績の関連性について書きました。7月8日は、7月ベネッセ総合学力テストです。この半年間をどのように過ごしたか、どんな意識で日々勉強したか、もう一度振り返り学習に励んでください。今回もClassiで課題を配信します。全員が課題を完了するよう、コツコツ頑張りましょう。

今年17歳になる皆さんに、ぜひ読んでほしい本があります。それは、『17歳のときに知った受験のこと、人生のこと。』（びーやま著）です。この本は、受験についてきれいごと一切なしで書かれています。大学受験や学習、メンタル面など様々な角度から書かれています。

○なぜ17歳なのか？

受験は18歳なのに、なぜ17歳なのか。それは、この1年間が受験に大きく影響するからです。「3年生になってから考えよう」では遅いです。2年生のうちから自分の受験や人生、将来について自分で考えていきましょう。特に印象的なページを載せておきます。

・大事なのは「自分がどうなりたいか」をいつも考え続けること p.94

なりたい自分は一人一人違います。周りに流されず、自分で考えましょう。

・「今さらやっても遅い」ではなく、「今が一番早い」 p.148

過去に戻って学び直しはできません。今この瞬間から勉強しましょう。

・「ダラける自分」には仕組みで挑め p.159

課題の提出はダラける自分を正してくれます。締め切りを守りましょう。

勉強、部活、学校生活で様々なことに挑戦して、自分の可能性を広げる1年間にしてください。それが将来の自分の糧になり、自信になり、原動力になります。

1年生

7月8日に、44期生にとって初めての全国の高校生が受験する「ベネッセ総合学力テスト」があります。約40万人もの高校生が受験するテストで、自分の学力が全国のどのレベルにあるかを知ることができ、将来の大学入試を考えるうえで非常に大切なテストです。また、入学してからの学習すべてがテスト範囲なので、これまでの学習がどの程度身についているかを確認することができます。

学力テストの前によく、「範囲が広すぎて何を勉強したらいいかわからない」という声を聞きます。それに対して、二つのことを伝えたいと思います。

一つ目は、「特効薬はない」ということ。学力テストの直前にちょっとやって急に点が上がるといううまい話はありません。日々の授業に対する取り組みが何よりも大事です。小テストで毎回満点をとれていますか？自力で解いてきていますか？自分で訳していますか？わからないことを授業で解決していますか？習ったことを家でもう一度やってみていますか？週末課題をきちんと提出していますか？そういうことをひたすらこつこつ頑張った人が、結果的に学力テスト、さらにはその先の入試でよい結果を得ることができるのです。

「鈍刀を磨く」という詩を4月の新入生オリエンテーションの際に紹介しました。勉強も、頑張っても頑張っても結果が出ないことはあります。1年生のうちにはそんなに勉強しなくてもいいやと思っている人もいるかもしれませんが。……が、今、目の前のことを一つ一つ努力すること。すぐに結果が出なくても信じて努力を続けること。そうしたら必ず、本当に必ず、自分にとってよい結果を得ることができます。あきらめずに磨くこと。それが一番大切です。

二つ目は、「対策はできる」ということ。いわゆる「傾向と対策」です。検定試験や入試などにそれぞれの傾向があるように、学力テストにも出題の傾向があります。たとえば、国語で言うと、1年生7月のこのテストでは毎年必ず「動詞の活用」の問題が出ています。だから、それに似た練習問題を解いておけば、対策できます。

それでは、どうやってその「傾向」を知ることができるのでしょうか？……それは、Classiで知ることができます。すでにClassiを活用して自分の目標に合わせた自学用の問題を解いている人もいますが、本日、全員に、テスト前にこれだけはやっておこう！という課題を配信しています。Classiを開き、「学習トレーニング」に配信されている課題を解いて自分の強み・弱みを知り、授業で習ったことを復習しておきましょう。

「鈍刀を磨く」坂村真民

鈍刀をいくら磨いても
無駄なことだというが
何もそんなことばに
耳を貸す必要はない
せっせと磨くのだ
刀は光らないかも知れないが
磨く本人が変わってくる
つまり刀がすまぬすまぬと言いながら
磨く本人を
光るものにしてくれるのだ
そこが甚深微妙の世界だ
だからせっせと磨くのだ